

503P1059 11000

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-76736

(P 2 0 0 0 - 7 6 7 3 6 A)

(43) 公開日 平成12年3月14日 (2000. 3. 14)

(51) Int. Cl. 7	識別記号	F I	テームコード (参考)
G11B 15/02	373	G11B 15/02	373 X 5C053
27/032		H04N 5/91	P 5D103
H04N 5/91		G11B 27/02	C 5D110

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平10-243387

(22) 出願日 平成10年8月28日 (1998. 8. 28)

(71) 出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 35 号

(72) 発明者 小川 靖宏

東京都品川区北品川 6 丁目 7 番 35 号 ソニー株式会社内

(74) 代理人 100091546

弁理士 佐藤 正美

F ターム (参考) 5C053 FA15 FA21 GA20 HA25 JA26
KA24

5D103 AC01 KA03 KA07 KA27 KA76

5D110 AA04 AA28 BB21 CA31 CB01

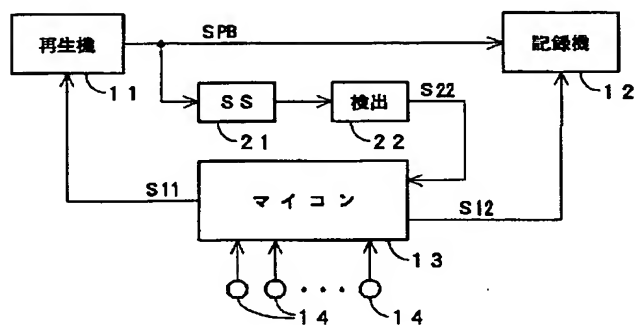
CC09 CF02

(54) 【発明の名称】 ダビング装置

(57) 【要約】

【課題】 親テープの無記録区間を自動的にカットして子テープにダビングし、子テープには記録区間が連続するようにする。

【解決手段】 再生機 1 1 から記録機 1 2 に供給される信号 SPB の有無を検出する検出回路 2 2 を設ける。ダビング時、検出回路 2 2 の検出出力により、再生機 1 1 が親テープの無記録区間を再生しているときには、記録機 1 2 の記録を停止させる。



ピュータ 13 に供給され、ダビング時には、次のような処理が実行される。

【0014】すなわち、再生機 11 に親テープ 1 をセットし、記録機 12 に子テープ 2 となる生テープをセットし、その後、操作キー 14 のうちのダビングキーを操作すると、まず、マイクロコンピュータ 13 から記録機 12 に制御信号 S12 が供給されて記録機 12 は、記録ポーズ状態とされ、次にマイクロコンピュータ 13 から再生機 11 に制御信号 S11 が供給されて再生機 11 は、親テープ 1 の先頭から再生状態とされる。

【0015】しかし、再生機 11 が再生状態となっても、親テープ 1 の冒頭部分は無記録区間 7 A なので、検出信号 S22 は“L”レベルであり、このため、マイクロコンピュータ 13 はなにも出力しない状態にある。したがって、再生機 11 は再生状態を続けるとともに、記録機 12 は記録ポーズ状態を続ける。

【0016】そして、再生機 11 の再生が進み、親テープ 1 の記録区間 6 A の始端に達すると、映像信号 SPB が再生されるようになって S22 = “H” となるが、この結果、制御信号 S12 により記録機 12 は、それまでの記録ポーズ状態から記録状態へと遷移される。したがって、以後、図 2 B に示すように、親テープ 1 の記録区間 6 A が、子テープ 2 の先頭からダビングされていく。

【0017】そして、このダビングが続き、再生機 11 の再生が記録区間 6 A の終端に達すると、映像信号 SPB が再生されなくなり、S22 = “L” となる。すると、制御信号 S12 により、記録機 12 はそれまでの記録状態から記録ポーズ状態へと遷移されるとともに、制御信号 S11 により、再生機 11 は再生状態から再生ポーズ状態へと遷移される。

【0018】続いて、記録機 12 は、制御信号 S12 により、S22 = “L” となってから記録機 12 が実際に記録ポーズ状態に遷移するまでの時間分だけテープ 2 が巻き戻される。なお、このとき、再生機 11 は、再生ポーズ状態とされているので、親テープ 1 の記録区間 6 A と、次の記録区間 6 B との間の無記録区間 7 が短くても、記録機 12 がテープ 2 を巻き戻している間に、再生機 11 が記録区間 6 B を再生するようになることがない。

【0019】次に、記録機 12 は、制御信号 S12 により、再び記録ポーズ状態とされ、再生機 11 は、制御信号 S11 により、再生ポーズ状態から再生状態へと遷移される。したがって、再生機 11 においては、無記録区間 7 B を再生していくようになる。ただし、記録機 12 は記録ポーズ状態を維持している。

【0020】そして、再生機 11 の再生が進み、親テープ 1 の記録区間 6 B の始端に達すると、S22 = “H” となるが、この結果、制御信号 S12 により、記録機 12 は、それまでの記録ポーズ状態から記録状態へと遷移される。したがって、以後、図 2 B に示すように、親テープ 1 の記録区間 6 B が、子テープ 2 の記録区間 6 A に続

いてダビングされていく。

【0021】そして、以後、再生機 11 の再生が、記録区間 6 の終端および始端に達するたびに、上記の動作が繰り返される。したがって、子テープ 2 には、図 2 B に示すように、無記録区間 7 がカットされ、記録区間 6 が連続するようにダビングされることになる。

【0022】こうして、この装置においては、ダビング時、親テープ 1 の無記録区間 7 を検出すると、記録機 12 は記録を行わないようにしているので、親テープ 1 に無記録区間 7 があっても、その無記録区間 7 をカットし、記録区間 6 だけを連続させてダビングを行うことができる。しかも、そのためには、最初にダビングを行うためのキー操作をするだけでよいので、ユーザに負担のかかることがない。

【0023】図 3 の装置においては、子テープ 2 の記録区間 6 のつなぎ目で、映像信号がよりきれいに、かつ、正確につながるようにした場合である。このため、この装置においては、親テープ 1 の記録区間 6 の終端が検出されたとき、記録機 12 は、それまでの記録状態から逆方向再生状態、すなわち、回路が再生状態で、テープ 2 が巻き戻し方向に走行する状態に遷移される。

【0024】そして、この再生により得られる映像信号が同期分離回路 23 に供給されて同期信号が取り出され、この同期信号が検出回路 24 に供給されて検出信号 S22 と同様の検出信号 S24 が取り出され、この信号 S24 がマイクロコンピュータ 13 に供給される。

【0025】そして、記録機 12 が逆方向再生を行うと、テープ 2 の再生位置は、無記録区間 7 から直前の記録区間 6 の終端に達し、このとき、S24 = “H” となる。すると、記録機 12 は、それまでの逆方向再生から記録ポーズ状態に遷移され、したがって、記録機 12 は、子テープ 2 の記録区間 6 の終端で記録ポーズ状態とされる。

【0026】したがって、再生機 11 が親テープ 1 の次の記録区間 6 に達すると、記録機 12 は、テープ 2 の記録区間 6 に続けて次の記録区間 6 をダビングすることになり、この結果、映像信号がよりきれいに、かつ、正確につながるように、記録区間 6 が連続することになる。

【0027】なお、上述においては、この発明をダブルデッキに適用した場合であるが、編集装置などに適用してダビング装置とすることもできる。また、上述においては、再生機 11 は無記録区間 7 を走行するときに再生状態であるが、高速再生状態（キュー再生状態）とし、続く記録区間 6 が検出されたら、親テープ 1 を巻き戻して再生状態として記録区間 6 の始端の検出に備えることもできる。さらに、同期信号 S21 の代わりにバースト信号などから、記録区間 6 と無記録区間 7 とを判別あるいは検出することもできる。

【0028】また、例えば、親テープ 1 に記録されている音声、モノラル音声、ステレオ音声、2 か国語音声

のうちのどれであることを判別し、その判別結果にしたがって記録機 12 を上述のように制御することにより、不要な音声の音声信号および映像信号をカットして子テープ 2 にダビングすることもできる。そして、これは、オーディオ専用のダビング装置に適用することもできる。

【0029】さらに、親テープ 1 に記録されている番組が、例えば音楽、スポーツ、ニュースなどのうちのどれであることを示す情報も記録されている場合には、その情報にしたがって記録機 12 を上述のように制御することにより、不要な番組をカットして子テープ 2 にダビング

【0030】

【発明の効果】この発明によれば、ダビング時、親テープに無記録区間があっても、その無記録区間をカットしてダビングを行うことができる。しかも、そのために、ユーザに負担のかかることがない。

【図面の簡単な説明】

【図 1】この発明の一形態を示す系統図である。

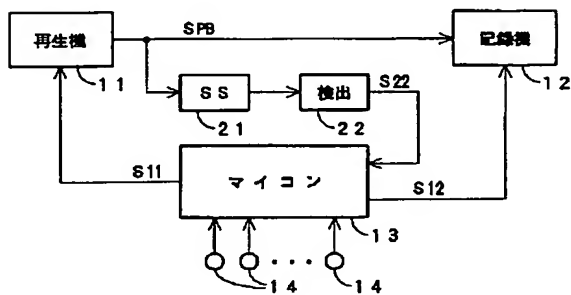
【図 2】この発明を説明するための図である。

【図 3】この発明の他の形態を示す系統図である。

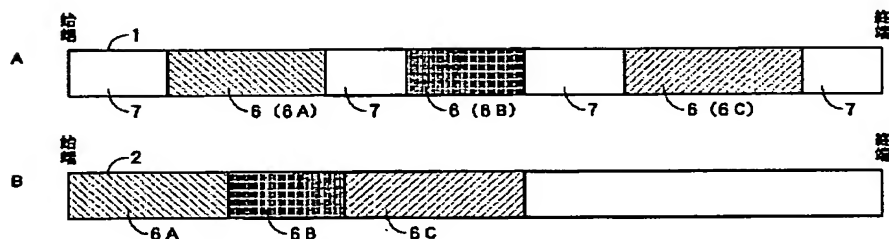
【符号の説明】

1 = 親テープ、2 = 子テープ、11 = 再生機、12 = 記録機、13 = マイクロコンピュータ、14 = 操作キー、21 = 同期分離回路、22 = 検出回路

【図 1】



【図 2】



【図 3】

